

鳳仙

発行
桐生山鳳仙寺
桐生市梅田町二丁目五八
電話(0277)331117

西暦2000年の夜明け!!



祈り 2000年を迎えるガンジス川の日の出 インド・ベナレスにて...

新世紀への期待が高まる中で、二〇〇〇年が幕を開けました。皆さまにとって、今年はどういう年になるのでしょうか。どのような年になるのでしょうか。どのような人生を送っていくのか。どのように考え、どう行動するかによって、運命は変えていくことができるのです。皆さまの今年の一年が、すばらしい一年になることをお祈りいたします。新年のお札をお送り致します。

新年七福神巡りと新春厄除け

初夢はどんな夢でしたか?七福神の宝船の夢を見られなかったら、さっそく七福神巡りをしてスタンプを集めて見ませんか?スタートは光明寺から色紙(七〇〇円)を買ってゆつくりと6キロの道のりです。そして新年の厄除けを鳳仙寺でも行ってまいります。

新年の厄除けは鳳仙寺で、十二月三十一日の除夜の鐘から七日まで毎日受付けており一月四日は厄除け大祭です。是非今年は菩提寺にお出で下さ

御詠歌だより

鳳仙寺では、毎月第一・第三木曜日、第二・第四水曜日の午後一時〜三時まで鳳仙寺庫裡において、御詠歌の練習をしております。新しい会員さんも増え益々にぎやかに

婦人会だより

なりました。皆さんも御詠歌を私達と一緒に練習しませんか? 毎月一回の例会を行って

中玄関の版木



「白大衆 生死事大 无常迅速 各宜醒覺 慎勿放逸」
この文字は、中玄関の木版(田島輝雄氏寄付)に書かれています。意味は、

「無常迅速といえは、諸行無常のことですが、どなたでもあの平家物語の巻頭を思い浮かべます。『祇園精舎の鐘の聲、諸行無常のひびきあり、沙

座禅の会に参加して

清水 善男

「禅の友11月号」には、ご開山・道元禅師のお言葉として、座禅とは『安楽の法門、安らぎの道』と示されています。その座禅の会に誘われて私も昨年鳳仙寺座禅会に参加させて戴いております。

「只管打坐」といって、自分が坐っていることさえ忘れて「坐」になりきること、要するにすべてを忘れ『無我』の境地に入ることが、座禅では大切なのだそうです。初心者の私には、とてもとても、でも坐っています。それまで聞こえていなかった周辺の小鳥のさえずり、木々の葉のそ

あります。座禅と朝粥の集いや旅行会、法話、新年会や納涼会、ボランティア活動等もりだくさんの行事を行っております。『会費年間千円』 入会希望の方は、お寺まで。...

謹賀新年

- | | |
|------|-------|
| 住職 | 坪井良廣 |
| 総代表 | 下山晴夫 |
| 副代表 | 小此木秀夫 |
| (副表) | 小田亨文 |
| (表) | 太田文 |
| 総代 | 長澤弘一郎 |
| (副表) | 石原竹雄 |
| (表) | 池田伊佐男 |
| 顧問 | 天笠良一 |
| (會計) | 池田伊佐男 |
| 世話人 | 東洋一 |
| | 石原信子 |
| | 板井政夫 |
| | 板倉光夫 |
| | 岩崎幸一 |
| | 岩崎信作 |
| | 岩崎道一 |
| | 内野親章 |
| | 梅沢正夫 |
| | 金丸由太郎 |
| | 金子宗清 |
| | 金子恒吉 |
| | 木島富雄 |
| | 桑原金吉 |
| | 小林林当 |
| | 小林茂里 |
| | 五味直二 |
| | 下山直治 |
| | 津久井裕治 |
| | 都筑治雄 |
| | 長沢吉太郎 |
| | 中島正雄 |
| | 長谷川孝元 |
| | 平方敏郎 |
| | 前原高男 |
| | 山崎一男 |
| | 鹿崎精一 |

よく音、小さな虫たちの声などが聞こえてきて、心になんともいえない安らぎを覚えさせてくれます。

本来「無我」の境地にあれば、こういった鳴き声や音などは、耳に入らないはずなのでしょう。が、今の私にとっては、逆にそれらがなんと清々しく心地よく、次回の参禅を楽しみにさせてくれます。今年も、やはり成り行きに任せ参禅が続きます。



四国八十八ヶ所参拝



(一番札所 霊山寺にて...)

平成十一年九月六日から九月十一日の五泊六日で四国霊場巡りが始まりました。第一回の日程は一番霊山寺から三十六番の青龍寺までです。

私達ち鳳仙寺一行は、一番の札所で巡拝の為に身じたくを致しました。もうりつばな遍路さんです。白装束に身をつつみ合掌の気持がひしひしと感んじ始めたのは、おそらく私一人ではなかったでしょう。



た。毎日の生活から離れた。ただ無心に過ぎて来しただの遍路の旅は自分自身の修行です。帰りはやっただという満足感で皆さんのすがすがしい笑顔が忘れ

られませんか。今年春、秋には残りの札所をまわります。頑張りましょう。参加者一同

だがそんな国道をはさんで生活する人々は、時間がゆーっくり流れている様である。

仕事が終わったのか、あぜ道で昼寝をする人、道行く車を眺める人、立ち木に鏡を貼り付けた床屋で散髪する人、思い思いの暮らしかた。子供達は、畑で飛び廻ったり、水溜りをかい出したりしている。

底の抜けた様なパンツを着てはいるが、子供たちの目は生き生きとしていた。

おばあちゃん、両親、大勢の子供など、耕運機又はトラクター、牛車に、全員乗り合わせて家路への列である。子供達は、ガス入り風船、綿あめなどを手に握り締めはしゃいでいた。また甘いものがほしい時彼らは、サトウキビをかじり満足していた。

| | |
|-------|--------|
| 一周忌 | 平成十一年 |
| 三回忌 | 平成十年 |
| 七回忌 | 平成六年 |
| 十三回忌 | 昭和六十三年 |
| 十七回忌 | 昭和五十九年 |
| 二十三回忌 | 昭和五十三年 |
| 二十七回忌 | 昭和四十九年 |
| 三十三回忌 | 昭和四十三年 |
| 三十七回忌 | 昭和三十九年 |
| 五十回忌 | 昭和二十六年 |
| 百回忌 | 明治三十四年 |

釈尊四大聖地を訪ねて

麓

鳳仙寺住職の坪井さんから、「インドへ行きま

車窓から見た風景で感じた事をお話したい。お釈迦様の地ビハール

結果両脇には、細長い低い地で、乾季だというのに洗濯水みたいな水溜りが

樹が延々と植えられ道幅の目印とされていた。

しばらくすると、バスがお祭りの縁日の様な人ごみに遭遇し囲まれた、

また甘酸っぱく種ごとかじる自然のグアバ実のかわりに、加工された、ピンク色した甘いグアバジュースなども教えたくないと思っ

から、「運れて行ってもらうかな...」の会話から、気がついたらなんと軽率にもインドの首都デリーの空港に着いてしまっていた。

観光旅行ではありませんが、これまで言われたの

そこのどこまでも続く国道の上を、頭の上に大きな稲束を器用に乗せて歩く人、こぶ牛、ラクダの荷馬車、豚の行進、ヤギの家族、大きなぞう、猿の群れ、耕運機、トラクター、人々を屋根まで鈴なりにのせた乗合バス、

積載過剰なトラック、トラック又トラック、そのうえ町と町をつなぐ唯一の道「ナショナルハイウェイ」は、無謀運転何でも有り早い物勝ちの世界であった。

そんな人込みを抜けると国道の両側を、隣町へと家路につく家族の人々の列が長く長く続いていて、おじいちゃん、

桐生発祥の地、鳳仙寺の本堂の真裏に霊園があります。

今度の旅では、三大宗教を初めとして、色々な宗教に接し考えさせられた。その事は諸先輩にお願いするとして、バスの

い盛り土して片側一車線の国道がどこまでも盛っていた。

おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、

桐生発祥の地、鳳仙寺の本堂の真裏に霊園があります。

おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、

桐生発祥の地、鳳仙寺の本堂の真裏に霊園があります。

今度の旅では、三大宗教を初めとして、色々な宗教に接し考えさせられた。その事は諸先輩にお願いするとして、バスの

い盛り土して片側一車線の国道がどこまでも盛っていた。

おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、

桐生発祥の地、鳳仙寺の本堂の真裏に霊園があります。

おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、

桐生発祥の地、鳳仙寺の本堂の真裏に霊園があります。

◆墓地分譲中◆

桐生発祥の地、鳳仙寺の本堂の真裏に霊園があります。

自然と緑に囲まれた聖地であると共に墓参りに便利な、百台駐車可能な駐車場があり、歩かなくても墓地に行けます。桐生市の中心より車で五分これからの時代の墓園です。

一区画一坪(約畳二枚の大きさ)で平均30万円です。

今なら良い区画が多数空いておりますので、御見学にお出下さい。

お知り合いの方、又墓地を見つけていらっしゃる方がありましたら、御紹介をお願い致します。

電話三二一一七七まで

鳳仙寺のインターネットホームページ
http://www.hosonji.or.jp
電子郵便では



おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、



おじいちゃん、おじいちゃん、おじいちゃん、